

甲佐中生徒の 子育て体験 「ハロー！ ベイビー！」



●甲佐中生徒を対象として開催された子育て体験「ハロー！ベイビー！」 ●(右ページ)妊婦体験シミュレーターや赤ちゃんの人形を使って、子育てについて体験学習 ●(左ページ)10か月教室に参加した赤ちゃんやお母さんと交流する中学生たち。実際に赤ちゃんに触れ合い、抱っこや着替え、おむつ交換なども挑戦



お母さんの疑似体験を通し子育ての愛情を体感

8月5日(金)町総合保健福祉センターで、子育て体験「ハロー！ベイビー！」が開催されました。

思春期の子どもたちが、妊婦の疑似体験や赤ちゃんとの触れ合いを通して、親子の愛情や子育ての楽しさ、命の尊さなどについて考える体験教室で、町保健福祉センターの主催。

夏休みを利用して開催され、甲佐中学校(吉田明博校長249人)の生徒23人が参加。体験教室は、赤ちゃんを持つお母さんの疑似体験と乳児の子育て実習、10か月教室に訪れた赤ちゃんとの触れ合いとお母さんたちとの交流による2部構成で行われました。

10kgの重りをお腹に着用して10か月の妊婦を体験

体験教室の前半で、中学生たちは実際に赤ちゃんに触れ合う前に、妊婦と子育ての疑似体験を受講。保健師の指導の下で、10か月を迎えた妊婦の体験と赤ちゃんとの接し方を実習しました。

妊婦体験では、約10kgの重りを赤ちゃんに想定してお腹の部分に当て、肩と腰で留めて着用する妊婦体験シミュレーターを装着して、体を自由に動かせない妊婦の大変さを体験。中学生たちは装着した状態で、歩く動作や床に置いた本を取る動作、お



腹を抱えて横たわる動作を試して、妊婦の大変さを体感しました。
接し方体験では、赤ちゃんの人形を使って実習。はじめに赤ちゃんの特徴について保健師から説明を受けて、抱っこの仕方を実践。赤ちゃんの抱き方を習得してから、着替えやおむつ交換などにも挑戦し、赤ちゃんがどれほど小さくて弱い体であるかを学びました。

赤ちゃんとの触れ合いを通して感じる命の温かさ

体験学習でお母さんの疑似体験を受講した後、中学生たちは同日に開催されていた10か月児教室に合流して、実際に赤ちゃんに触れ合って子育てを体験しました。

赤ちゃんとお母さんと対面し、中学生たちは10か月児教室での赤ちゃんの身体計測を手伝い、着替えやおむつ交換を実際に体験。赤ちゃんたちが自由に動き回ろうとしたり、大声で泣き出したりして、子育て体験は四苦八苦。抱っこしたり、おもちゃと一緒に遊んだりして、優しく触れ合うことで少しずつ慣れて、笑顔で接することができるようになりました。また、お母さんたちから子育てについての体験談を聞き、お母さんの愛情について考えました。
10か月教室の終了後に、中学生たちは体験学習を踏まえて、自分を大切に育ててくれた保護者へ、心を込めて感謝の手紙を書きました。